

平成27年度事業報告書
(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

1. バドミントンの普及及び指導

(1)ジュニアに対する普及・指導活動の充実と社会人愛好者の組織づくりへの助成活動を進め、会員の拡大を図り275,250名の会員を得て、30万人の目標に近づいた。

(2)第24回全国小学生バドミントン選手権大会

12月23日から12月27日までの5日間、北九州市立総合体育館で延820名の指導により、男子の部団体49団体、女子の部団体49団体、6年生以下男子単44名、同複36組、女子単44名、同複36組、5年生以下男子単38名、同複36組、女子単38名、同複36組、4年生以下男子単36名、同複36組、女子単36名、同複36組、実人員812名の参加で開催。優勝者は男子団体東京都、女子団体茨城県、6年生以下男子単武井凜生(東京)、同複野口翔平・小原輝組(東京)、同女子単杉山薫(茨城)、同複久湊菜々・石田萌組(愛知)、5年生以下男子単岩野滉也(愛知)、同山腰悠太・石崎太一組(福岡)、同女子単吉川天乃(岡山)、同複岩西真那・藤田美咲組(東京)、4年生以下男子単沖本優大(広島)、同複伊藤康太郎・中川友那(埼玉)、同女子単山北奈緒(埼玉)、同複竹本千穂・堀小雪組(岡山)で、導入期の少年に正しい競技を習得させるとともに、少年層の普及に成果を収めた。

(3)第16回全国小学生ABCバドミントン大会

8月14日から8月16日までの3日間、一般財団法人地域活性化センターの支援を受け、八代市総合体育館他1会場で、役員延790名の指導により、男子Aグループ62名、同Bグループ53名、同Cグループ47名、女子Aグループ63名、同Bグループ53名、同Cグループ49名、実人員327名の参加で開催。優勝者は男子Aグループ武井凜生(東京)、同Bグループ沖本優大(広島)、同Cグループ澤田修志(北北海道)、女子Aグループ杉山薫(茨城)、同Bグループ女子石岡空来(南北海道)、同Cグループ山本優愛(愛知)で、導入期の少年に正しい競技を習得させるとともに、少年層の普及に成果を収めた。

(4)第14回日本バドミントンジュニアグランプリ2015

11月20日から11月22日までの3日間、一般財団法人地域活性化センターの支援を受け、仙台市体育館他1会場で、役員延820名の指導により、男子の部39団体、女子の部40団体、実人員632名の参加で開催。優勝者は男子団体埼玉県、女子団体埼玉県で、全国各都道府県ジュニア選手育成の一貫指導体制の確立促進を図るとともに、ジュニア層への普及に大きな成果を収めた。

(5)第31回若葉カップ全国小学生バドミントン大会

7月31日から8月3日までの4日間、長岡京市西山公園体育館で、役員延910名の指導により、男子の部38都道府県48チーム、女子の部38都道府県48チーム、実人員1,157名の参加で開催。優勝者は男子の部Dr eam. Jr(福井)、女子の部市原ジュニア(千葉)で、少年少女相互の交流と体力の増強と健全で豊かなスポーツの育成に効果を挙げた。

(6)第45回全国中学校バドミントン大会

8月20日から8月23日までの4日間湿原の風アリーナ釧路で、役員延995名の指導により学校対抗男子24校、女子24校、男子単36名、同複36組、女子単36名、同複36組、実人員504名の参加で開催。優勝者は学校対抗男子埼玉栄中(埼玉)、同女子埼玉栄中(埼玉)、男子単奈良岡功大(浪岡中)、同複武井優太・遠藤彩斗組(埼玉栄中)、女子単水井ひらり(猪苗代中)、同複福本真恵七・佐藤杏組(猪苗代中)で、全国中体連との共催で中学生に正しい技術を習得させることができた。

(7)第16回全日本中学生バドミントン選手権大会

平成28年3月20日から3月22日までの3日間、宮崎市総合体育館他1会場で、役員810名の指導により、都道府県対抗男女混合団体49チーム、実人員441名の参加で開催。埼玉県が優勝し、中学生の健全育成に寄与することができた。

(8)第44回全国高等学校選抜バドミントン大会

平成28年3月24日から3月28日までの5日間、鶴岡市小真木原総合体育館アリーナ他2会場で、役員延940名の指導により、学校対抗男子33校、女子34校、実人員589名の参加で開催。優勝者は学校対抗男子埼玉栄高(埼玉)、同女子青森山田高(青森)、男子単渡邊航貴(埼玉栄高)、同複岡村洋輝・渡邊航貴組(埼玉栄高)、女子単海老原詩織(作新学院高)、同複曾根夏姫・二村ひとみ組(青森山田高)で、それぞれ高校生の交流と技術の習得に大きな成果を収めた。

(9)第33回全日本レディースバドミントン選手権大会

7月23日から7月26日までの4日間、都道府県対抗の部は、富山市総合体育館で、42都道府県42チーム、実人員435名の参加で開催。優勝者は福岡県。また、クラブ対抗の部は同日、同場所で、42都道府県53チーム、551名の参加で開催。逗子なぎさ(神奈川)が優勝し、レディースへの普及と正しい競技の習得に大きな成果を収めた。役員延521名。

(10)第10回全日本レディース(個人戦)バドミントン競技大会

12月11日から12月13日までの3日間、コカ・コーラウエストスポーツパーク他2会場で、ダブルス個人戦で実施し、38都道府県、実人員790名の参加で開催。優勝者は1部高井亜季代・伊藤早央吏組(愛知)、2部Aブロック湯谷佳菜・林舞依組(鳥取)、2部Bブロック中川章子・今田由佳組(奈良)、2部Cブロック物井あゆみ・中津位江組(神奈川)、2部Dブロック岡田忍・近葉裕子組(福井)、2部Eブロック高垣尚美・大東恵里子組(兵庫)、2部Fブロック山本邦子・児玉幸代組(奈良)、2部Gブロック梯栄子・市田礼子組(東京)、2部Hブロック松本美津江・内野とし子組(埼玉)、2部Iブロック藤原三和・宇野早苗組(神奈川)でレディースへの普及と発展に成果を収めた。役員延680名。

(11)用器具検査並びに認定

厳正なる検査の結果、第1種水鳥シャトル30種(21社)、第2種水鳥シャトル11種(10社)、合成シャトル1種(1社)、ラインテープ6種(6社)、ラケット158種(15社)、検定工場18社、ネット16種(4社)、ストリングス46種(9社)、シューズ70種(10社)、ウェア482種(17社)を認定し、愛好者の使用の便を図った。

(12) 競技規則書等発行

各都道府県協会並びに7連盟で開催する審判講習会・検定会等でルール周知徹底を図るため2016・2017年競技規則(赤本)・ルール教本(2016年版3級・準3級公認審判員資格検定ルール教本「緑本」)を発行し、常に新しい競技規則等の正確な資料を提出し、正しいルールに基づく円滑な試合運営と公認審判員有資格者の増員と資質の向上を図った。

(13) 庶務業務の活性化

IT推進担当者会議を開催し、全国の都道府県協会の登録業務の統一化と活性化を図った。

(14) 広報活動

HPを活用しての迅速かつ正確な情報公開と広報活動及びマスメディアに対して適時な情報、資料等を積極的に提供することにより、テレビ、新聞等の露出数が増大しPR効果を拡大し、バドミントン競技をより多くの人に理解を広めた。また、ジュニア選手層の開発に向けて、告知ポスター等を作製、全国に配布し、会員、愛好者の拡大を図った。

(15) 学連助成

学連の活動に対して、助成し、同連盟のより活発な活動を図った。

(16) 高体連助成

高体連の活動に対して、助成し、同連盟のより活発な活動を図った。

(17) 中体連助成

中体連の活動に対して、助成し、同連盟のより活発な活動を図った。

(18) 小学生助成

小学生連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図った。

(19) 小・中・高一貫指導

「世界で戦える競技者」育成のため、各都道府県協会に小・中・高の一貫指導体制の構築を推進し、ジュニアの育成・強化を実施した。

2. バドミントンに関する審判員及び指導員の養成及び資格の認定

(1) 公認レフェリー資格者の本会第1種大会への派遣

公認A級・B級のレフェリー有資格者を平成27年度実施の全ての第1種大会(23大会)にレフェリーまたは Deputyレフェリーとして派遣し、大会運営全般の統一性と公正化を図った。またA級レフェリー検定会については昨年度3名の受講者全員が筆記試験に合格し、それを受けて27年度に実技試験が実施され3名全員が合格した。

(2) 公認審判員養成講習会開催

審判員技術の向上と正しい競技規則書の習得により円滑な大会運営を図るため公認審判員制度を設け、1級審判員検定会を本会が主催し、2級、3級、準3級審判員資格検定会は、地区及び都道府県、7連盟が主催し開催された。検定会は本会公認審判員資格審査認定員に委託した。

(3) 公認審判員の資格認定登録

公認審判員資格登録規程による学科試験、実技試験の合格者を各級公認審判員に認定し、登録させ、各地で実施する大会において正義と公正に基づく円滑な競技会運営を図った。公認審判員資格登録規程に定める資格取得試験に合格した者は、1級47名、2級118名、3級4,625名、準3級8,089名、準3級から3級への特別移行者は789名で、それぞれが資格登録も完了した。また同規程により、1級209名、2級573名、3級10,263名の有資格者が資格更新登録をした。こうした正しい競技規則の習得や審判技術のマスターは、更なるバドミントン技術の資質向上に役立ち、また、全国の数々の大会においてその審判能力は、大会運営において大きな効果を挙げた。

(4) 国際審判員資格取得試験受講者の養成と国際審判員資格既得者の研修及び活動

本年も、年に一度のBAC認定国際審判員養成セミナーを9月7日から9日まで、東京都(ヨネックスオープンジャパン2015開催時)において開催した。参加者は3名であった。また、資格既得者の研修・活動として国際審判員相互派遣交流大会である台北オープン、マレーシアオープン、韓国オープン、フランスオープン、中国オープンに国際審判員を派遣した。また、BWF、BACの指名により国際レフェリー、国際審判員、国際線審を多数の国際大会へ派遣した。これらの派遣事業は国際交流事業に大いに貢献した。

バンコク(タイ)で開催されたBAC国際審判員試験を市川佑氏(岡山)が受験し、合格した。

(5) 公認スポーツ指導者養成講習会

公益財団法人日本体育協会と共催して、公認コーチ(バドミントン 2 級)の養成講習会を11月に前期4日間(福島県安積総合学習センター19名)、28年1月に後期4日間(埼玉県国立女性教育会館 23名)で開催した。

また、公認上級コーチ(バドミントン 1 級)の養成講習会を28年2月に3日間(味の素ナショナルトレーニングセンター12名)で開催した。公認コーチ14名(内過年度分 3名)、上級コーチ10名が専門科目検定試験に合格したことを公益財団法人日本体育協会へ報告した。また、各都道府県バドミントン協会が各々の体育協会と共催で実施する公認スポーツ指導者養成講習会は、公認上級指導員(バドミントン3級)を千葉県・群馬県、公認指導員(バドミントン4級)を東京都ほか10県で開催した。

(6) 公認スポーツ指導者の資格更新のための義務研修会

指導者資格認定制度に登録された各スポーツ指導者の登録更新のために、4年間に1回受けなければならない義務研修会を実施した。公認上級コーチ、コーチの義務研修会は、平成 27 年9月(味の素ナショナルトレーニングセンター23名 2日間)および平成28年1月(味の素ナショナルトレーニングセンター50名 2日間)に開催した。最新の情報を得ることや、コーチとしての資質の向上を図りながらコーチ間の連帯を深めた。また、34都道府県協会(延 39回)で、公認スポーツ上級指導員・指導員のための義務研修会が実施され、指導者としての資質の向上を図った。なお、公認上級コーチ、コーチの義務研修会受講者および各都道府県バドミントン協会から報告のあった公認上級指導員、指導員の義務研修会受講者名を、公益財団法人日本体育協会へ報告した。

(7)公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会

平成 27 年7月4日・5日国立スポーツ科学センターにおいて、54名の参加で開催した。

3. 公益財団法人日本体育協会、世界バドミントン連盟(BWF)及びアジアバドミントン連盟(BAC)への加盟

(1)公益財団法人日本体育協会等への代表者派遣

公益財団法人日本体育協会、JOCへ代表者を派遣するとともにその事業に対し、協調、展開し、バドミントン競技の発展を図った。

(2)BWF(世界連盟) 総会への代表者派遣

高橋英夫理事(本会国際部長)・三王知治(国際部員)5月16日、東莞市(中国)で開催されたBWF年次総会に派遣し、国際スポーツ振興のため協調し、世界バドミントン競技の発展を図った。

(3)BAC(アジア連盟) 総会等への代表者派遣

高橋英夫理事(本会国際部長)を4月25日に武漢市(中国)で開催されたBAC年次総会に派遣し、アジアスポーツ振興のため協調し、アジアバドミントン競技の発展を図った。なお、この会議においてBACの新会長、副会長、専務理事等の選挙があり、高橋理事が副会長に選出された。任期は2019年4月まで。

4. バドミントンに関する国内競技会の開催

(1)第65回全日本実業団バドミントン選手権大会

7月1日から7月5日までの5日間、島津アリーナ京都(京都府立体育館)他3会場で、男子団体173団体、女子団体44団体、実人員1,953名の参加で開催。優勝者は男子団体トナミ運輸(富山)、女子団体日本ユニシス(東京)、競技役員延1,200名。

(2)第66回全国高等学校バドミントン選手権大会

8月6日から8月11日までの6日間、西山公園体育館他2会場で、男子団体49団体、女子団体49団体、男子単98名、同複98組、女子単98名、同複98組、実人員990名の参加で開催。優勝者は男子団体埼玉栄(埼玉)、女子団体青森山田高(青森)、男子単渡辺勇大(富岡ふたば未来学園高)、同複渡辺勇大・三橋健也組(富岡ふたば未来学園高)、女子単山口茜(勝山高)、同複志田千陽・小田菜摘組(青森山田高)、競技役員延965名。

(3)第3回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会

8月15日から8月16日までの両日、日本体育大学健志台キャンパス米本記念体育館において、実人員104名の参加で開催。優勝者は齋藤太一・島田きらら(早稲田大)、競技役員延460名。

(4) 第54回全日本教職員バドミントン選手権大会

8月10日から8月14日までの5日間、田原本町立中央体育館他1会場で、男子団体17団体、女子団体10団体、男子成壮年団体17団体、女子成壮年団体6団体、一般男子単78名、同複47組、一般女子単48名、同複36組、30才以上男子単45名、同複27組、30才以上女子単8名、同複5組、40才以上男子単53名、同複30組、40才以上女子単9名、同複10組、50才以上男子単59名、同複44組、50才以上女子単14名、同複14組、60才以上男子単22名、同複15組、65才以上男子単13名、同複7組、70才以上男子単12名、同複5組、の参加で開催。優勝者は男子団体岐阜県、女子団体石川県、男子成壮年団体高知県、女子成壮年団体石川県、一般男子単銭谷翔(和歌山)、同複吉村諒・長嶋一輝組(長崎)、一般女子単武田陽子(和歌山)、同複武田陽子・小口晃佳組(和歌山)、30才以上男子単佐藤伴哉(青森)、同複富澤賢司・吉田昌弘組(埼玉)、30才以上女子単飯島春奈(山梨)、同複濱田千佐・西内生江組(高知)、40才以上男子単桐原健(熊本)、同複川添周三・中原学組(高知)、40才以上女子単谷藤千香(千葉)、同複坂崎美奈子・木下八枝子組(熊本)、50才以上男子単江藤正治(熊本)、同複後藤智彦・川島康行組(千葉)、50才以上女子単江澤曜子(東京)、同複早田彰子・前田美恵子組(熊本)、60才以上男子単山本正人(鳥取)、同複岩下元行・田代昌昭組(熊本)、65才以上男子単藤森龍二(岡山)、同複平井克英・水上英二組(東京)、70才以上男子単廣田彰(宮崎)、同複黒崎二男・宮崎茂樹組(神奈川)、競技役員延920名。

(5) 第17回全国高等学校定時制通信制バドミントン大会

8月17日から8月20日までの4日間、小田原アリーナで、男子団体45団体、女子団体45団体、男子単98名、女子単98名、実人員646名の参加で開催。優勝者は男子団体長崎県、女子団体新潟県、男子単住徳聖也(長崎)、女子単佐藤絵理(新潟)、競技役員延460名。

(6) 第39回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会

8月22日・23日両日、佐世保市体育文化館で、男子団体16校、女子団体16校、男子単16名、同複16組、女子単16名、同複16組、実人員288名の参加で開催。優勝者は男子団体釧路高専、女子団体北九州高専、男子単久保遵幸(釧路高専)、同複斉木勇志・清水一平組(北九州高専)、女子単楠城由佳(北九州高専)、同複池田真子・中野三恵子組(富山高専・射水高専)、競技役員延480名。

(7) 第58回全日本社会人バドミントン選手権大会

8月28日から9月2日までの6日間、北九州市立総合体育館他1会場で、男子単378名、同複291組、女子単109名、同複139組、同混合複173組、実人員1,693名の参加で開催。優勝者は男子単坂井一将(東京)、同複保木卓朗・小林優吾組(富山)、女子単佐藤冴香(東京)、同複福万尚子・興猶くるみ組(熊本)、混合複園田啓悟・福万尚子組(富山・熊本)、競技役員延1,110名。

(8) 第34回全日本ジュニアバドミントン選手権大会

9月20日から9月23日までの4日間、久喜市総合体育館他1会場で、ジュニアの部男子単75名、同複54組、女子単81名、同複58組、ジュニア新人の部男子単109名、同女子単110名、実人員599名の参加で開催。優勝者は男子単渡邊航貴(埼玉)、同複小野寺雅之・岡村洋輝組(埼玉)、女子単海老原詩織(栃木)、同複川島美南・上杉夏美組(埼玉)、新人男子単山下啓輔(福島)、同女子単福井美空(埼玉)、競技役員延790名。

(9) バドミントン日本リーグ2015

10月31日から平成28年2月14日までの12日間、高岡市民体育館他16会場で、男子8チーム、女子8チーム、実人員147名の参加で開催。優勝者は男子日本ユニシス(東京)、女子日本ユニシス(東京)、競技役員延1,320名。

(10) 第66回全日本学生バドミントン選手権大会

10月9日から10月15日までの7日間、大阪府立体育会館他2会場で、男子団体32団体、女子団体32団体、男子単98名、同複97組、女子単96名、同複96組、実人員1,028名の参加で開催。優勝者は男子団体法政大学(東京)、女子団体筑波大学(茨城)、男子単西本拳太(中央大)、同複古賀輝・齋藤太一組(早稲田大)、女子単杉野文保(龍谷大)、同複柏原みき・加藤美幸組(筑波大)、競技役員延920名。

(11) 第32回全日本シニアバドミントン選手権大会

11月20日から11月23日までの4日間、敦賀市総合運動公園体育館他8会場で、30才以上男子単132名、同複111組、30才以上女子単29名、同複40組、30才以上混合複66組、35才以上男子単122名、同複105組、35才以上女子単33名、同女子複65組、35才以上混合複71組、40才以上男子単150名、同複135組、40才以上女子単44名、同複94組、40才以上混合複124組、45才以上男子単96名、同複93組、45才以上女子単51名、同複95組、45才以上混合複103組、50才以上男子単97名、同複96組、50才以上女子単52名、同複93組、50才以上混合複107組、55才以上男子単83名、同複86組、55才以上女子単42名、同複69組、55才以上混合複74組、60才以上男子単84名、同複85組、60才以上女子単24名、同複59組、60才以上混合複58組、65才以上男子単64名、同複57組、65才以上女子単24名、同複38組、65才以上混合複41組、70才以上男子単49名、同複43組、70才以上女子単20名、同複27組、70才以上混合複27組、75才以上男子単25名、同複17組、75才以上女子単8名、同複13組、75才以上混合複17組、延べ3,397名の参加で開催。30才以上男子単藤野紘史(東京)、同複谷川俊昭・別森英司組(富山)、30才以上女子単高畑亜津紗(香川)、同複梅津知恵・山田青子組(岐阜)、30才以上混合複薄智彦・脇坂郁組(大阪)、35才以上男子単藤本ホセマリ(東京)、同複富田岳彦・佐藤憲策組(東京)、35才以上女子単大石瞳(福岡)、同複比留川夕子・石橋律子組(東京)、35才以上混合複福井剛士・草薙美幸組(東京・大阪)、40才以上男子単平松孝浩(愛知)、同複虻川友光・有田浩史組(大阪)、40才以上女子単松田奈緒子(石川)、同複石岡佳世子・中嶋愛美組(群馬)、40才以上混合複磯貝謙太郎・加藤千里組(愛知)、45才以上男子単儀間光吉(沖縄)、同複山野隆盛・武田修組(石川)、45才以上女子単横手智江美(岩手)、同複金子正子・田村富士美組(福岡)、45才以上混合複浜田洋彰・金子正子組(福岡)、50才以上男子単大和田勉(東京)、同複宗形一志・宮本道雄組(東京)、50才以上女子単佐々木裕子(東京)、同複高垣尚美・大東恵里子組(兵庫)、50才以上混合複神代和久・山西智佳子組(富山・愛知)、55才以上男子単上原明(香川)、同複神谷敏幸・管敏明組(東京・長崎)、55才以上女子単菊池葉子(東京)、同複上田佳代子・山本邦子組(東京・奈良)、55才以上混合複高野一男・西村眞澄組(福井)、60才以上男子単松口金彦(大阪)、同複菊池敏・佐藤明海組(岩手・千葉)、60才以上女子単新田豊子(香川)、同複米沢千江美・佐藤和美組(千葉)、60才以上混合複中村一弘・山田泰子組(和歌山)、65才以上男子単山本清二(京都)、同複山本秀夫・油野徳公組(石川)、65才以上女子単桶本百合子(福岡)、同複光中博美・桶谷千鶴子組(東京・石川)、65才以上混合複吉田寛・浅越治子組(千葉・埼玉)、70才以上男子単廣田彰(宮崎)、同複黒崎二男・宮崎茂樹組(神奈川)、70才以上女子単石井伸子(山口)、同複児玉洋子・土庵清子組(大阪・奈良)、70才以上混合複安田博泰・竹村明子組(神奈川)、75才以上男子単金丸清昭(神奈川)、同複本田晃啓・芝崎侑司組(新潟・静岡)、75才以上女子単遠藤夫美子(福島)、同複田中静子・大塚かつ江組(埼玉)、75才以上混合複芝崎侑司・田中静子組(静岡・埼玉)、競技役員延1,360名。

(12)平成27年第69回度全日本総合バドミントン選手権大会

11月30日から12月6日までの7日間、国立代々木競技場第二体育館で男子単53名、同複51組、女子単56名、同複53組、混合複35組、実人員387名の参加で開催。優勝者は男子単桃田賢斗(東京)、同複園田啓悟・嘉村健士組(富山)、女子単奥原希望(東京)、同複高橋礼華・松友美佐紀組(東京)、混合複数野健太・栗原文音組(東京)、競技役員延960名。

(13)日本マスターズ2015バドミントン競技会

公益財団法人日本体育協会等との共催事業で、9月19日から9月21日までの3日間、白山市松任総合運動公園体育館で、男子23都道府県、女子23都道府県でのリーグ戦を勝ち抜いたチームによるトーナメント戦で実施。実人員768名の参加で開催。優勝者は男子大阪府、女子愛知県、競技役員延620名。

(14)第70回国民体育大会バドミントン競技会

公益財団法人日本体育協会等との共催事業で、10月2日から10月5日までの4日間、岩出市立市民総合体育館で、成年男子16団体、成年女子47団体、少年男子32団体、少年女子16団体、実人員444名の参加で開催。優勝者は成年男子の部福島県、成年女子の部熊本県、少年男子の部福島県、少年女子の部福井県、競技役員延780名。

5. バドミントンに関する国際競技会

(1)大阪インターナショナルチャレンジ2015

4月1日から4月5日までの5日間、守口市市民体育館で、男子単56名、同複51組、女子単52名、同複32組、混合複43組、実人員360名(日本選手161名、外国選手199名)の参加で開催。優勝者は男子単 Jeon Hyeok Jin(韓国)、同複数野健太・山田和司組(日本)、女子単高橋沙也加(日本)、同複 Chen Qingchen・Jia Yi Fan 組(中国)、同混合複 Duck Young Kim・Eom Hye Won 組(韓国)、競技役員延1,100名。

(2)ヨネックスオープンジャパン2015

9月8日から9月13日までの6日間東京体育館で、男子単44名、同複44組、女子単43名、同複41組、混合複44組、実人員345名(日本選手108名、外国選手237名)の参加で開催。優勝者は男子単 Lin Dan(中国)、同複 Lee Yong Dae・Yoo Yeon Seong 組(韓国)、女子単奥原希望(日本)、同複 Zhao Yunlei・Zhong Qianxin 組(中国)、同混合複 Joachim Fischer Nielsen・Christinna Pedersen 組(デンマーク)、競技役員延1,260名。

(3)ヨネックス杯国際親善レディースバドミントン大会2015

10月15日から10月18日までの4日間、エディオンアリーナ大阪(大阪府立体育会館)他1会場で、韓国他7ヶ国を迎え、トーナメント戦で実施し、実人員1,709名(日本選手1,574名・外国選手135名)の参加で開催。優勝者はAゾーン岐阜トリッキーパンダース(日本)、Bゾーン Chinese Taipei A(台北)、Cゾーン Chinese Taipei B(台北)、Dゾーン広島スウイング(広島)、Eゾーンあい&あい B(兵庫)、Fゾーン千葉 A(千葉)、Gゾーンミラクルパワー B(埼玉)、Hゾーン Mix70愛知 A(愛知)が優勝し、国際親善への普及と発展に成果を収めた。競技役員延590名。

(4) 日・韓高校生交流競技会

12月14日から19日までの6日間、味の素ナショナルトレーニングセンターで、団長長谷川博幸他役員5名、男女各8名、計22名。韓国団長 KIM Joong Soo 他役員4名、男女各8名を迎え開催。成績は男子団体戦3勝。女子団体戦2勝1敗。

6. バドミントンに関する国際大会への代表者の選考及び派遣

(1) 第14回世界国別対抗バドミントン選手権(スディルマンカップ)大会

5月7日から5月17日までの11日間、中国、東莞市へ監督朴柱奉他役員4名選手男女各7名、計19名を派遣。成績は団体準優勝。

(2) 日・韓高校生交流競技会

5月15日から20日までの6日間、大韓民国、唐津市へ団長長谷川博幸他役員3名、選手男女各8名、計20名を派遣。成績は男子団体戦2勝1敗、女子団体戦3勝。

(3) アジアジュニアU19選手権2015

6月26日から7月6日までの11日間、タイ、バンコク市へ団長長谷川博幸他役員5名、選手男子8名、女子10名、計24名を派遣。成績は団体戦3位。男子単渡辺勇大3位、女子単荒木萌恵3位、女子複志田千陽・松山奈未組3位。

(4) 日・韓・中ジュニア交流競技会

8月23日から29日までの7日間、大韓民国、州特別自治道へ団長田部井秀郎他役員2名、選手男子6名、女子5名、計14名を派遣。成績は男子団体戦2勝1敗、女子団体戦2勝1敗。

(5) 第28回ユニバーシアード競技大会バドミントン競技

7月2日から7月13日までの12日間、大韓民国、光州市へ団長宮崎重勝他役員3名、選手男女各6名、計16名を派遣。成績は団体ベスト8。女子単田中志穂3位、女子複加藤美幸・柏原みき組3位。

(6) 2015世界ジュニアバドミントン選手権大会

10月31日から11月17日までの18日間、ペルー、リマ市へ団長田部井秀郎他役員5名、選手男子8名、女子10名、計24名を派遣。成績は団体戦3位、男子単渡邊航貴3位、女子単荒木萌恵3位、仁平菜月3位、男子複渡辺勇大・三橋健也組3位、女子複志田千陽・松山奈未組3位、混合複志田千陽・森岡秀斗組3位。

(7) アジア団体選手権兼トマス杯ユース杯アジア予選

2月14日から22日までの9日間、インド、ハイデラバード市へ団長上松芳則他役員5名、選手男女各10名、計26名を派遣。成績は男子団体 準優勝、女子団体 準優勝。

7. バドミントンの競技力の向上

(1) スポーツ医科学研究

バドミントン選手の合宿時のエネルギー消費量測定と体組成測定を実施し、国際競技力向上のためのメディカルサポートシステム、トレーニング対策やメカニズムを明確にしていくとともに、競技者のコンディション評価に役立てた。

(2) アンチドーピング対策

JADA(公益財団法人日本アンチドーピング機構)との協力により「日本ドーピング防止規程」によりドーピング検査を実施し、アンチドーピング対策を実施した。

(3) 選手強化

オリンピックでのメダル獲得を目指し、ナショナルトレーニングセンターの有効活用や、国際大会への派遣を行い、ナショナルチームのより一層の選手強化を図った。特に国際大会での活躍に現れ、全英選手権大会では2種目優勝、1種目準優勝等、好成績をあげた。また、ジュニア層においては小中高一貫指導により競技力向上を図り、次代の世界選手権大会、オリンピック等に備え、有望選手を発掘し、合宿及び小中高の海外交流を実施、国際大会に派遣する等選手強化体制の充実を図った。

(4) 競技用具補助

競技技術の向上を図るため国際競技会出場選手131名に対し、競技用具を補助した。